

〈2025 年度〉

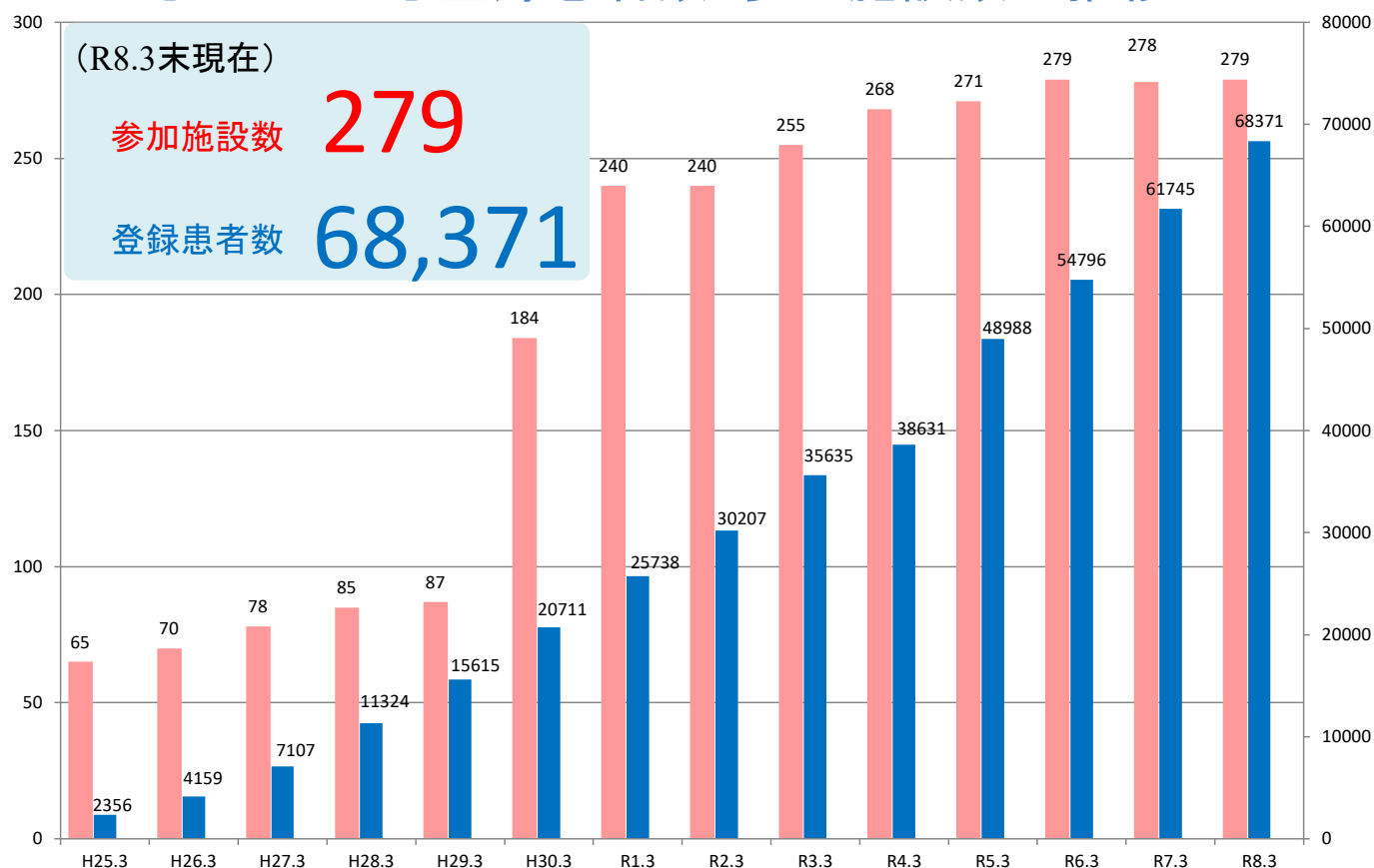
ism-Link の検証

南信州在宅医療・介護連携推進協議会
飯田下伊那診療情報連携システム運営小員会

医療と介護の連携において、円滑な情報共有は重要な課題の一つとなっている。飯田下伊那診療情報連携システム（ism-Link）は、2009 年度に導入され、2011 年 12 月に情報開示 6 病院を中心に運用を開始した。その後、システム更新を機に、2016 年 4 月に南信州広域連合に事務局を設置し、南信州在宅医療・介護連携推進協議会の飯田下伊那診療情報連携システム運営小委員会において運用方法等の検討を行っている。その中で、ism-Link が当地域の医療・介護連携における「情報インフラ」として適切なシステムであるかどうかを検討するため、定期的に ism-Link の利活用の状況、医療・介護連携における効果等について検証作業を実施している。

	項目	検証に必要な主要データ	詳細
1	基本事項	参加医療・介護関係事業者数	・地域全体の医療・介護関係事業者数把握（資源把握） ・参加事業者数集計（全体/業種別） ・参加率（地域全体/業種別）
2	基本事項	ism-Link に同意した住民の数	・地域全体の登録患者数
3	病病連携	病院間連携での閲覧状況	・病院間アクセス件数 ・地域連携パスにおける ism-Link での連携 ・その他転院時における ism-Link での連携
4	病診連携	病診間連携での閲覧状況	・病⇒診アクセス件数 ・診⇒病アクセス件数 ・がん地域連携パスにおける ism-Link での連携
5	多職種連携	医療介護連携での閲覧状況	・連携シート作成数に対する ism-Link 登録患者 ・診病間アクセス件数
6	情報共有項目	項目別閲覧状況	各項目※1のアクセス件数 ※1 画像・検査・注射・処方・レポート・ファイル・ノート

[ism-Link] 登録患者数・参加施設数の推移



2026.3 末

施設	地域施設数	参加施設数	参加率
病院	9	9	100%
診療所	95	67	71%
歯科診療所	72	26	36%
調剤薬局	64	61	95%
訪問看護ステーション	15	15	100%
介護関係事業所 (行政含む)	228	101	44%
合計	483	279	58%

検証項目 3～6

(1) アクセス件数の年次推移

図1 施設別アクセス件数の年次推移

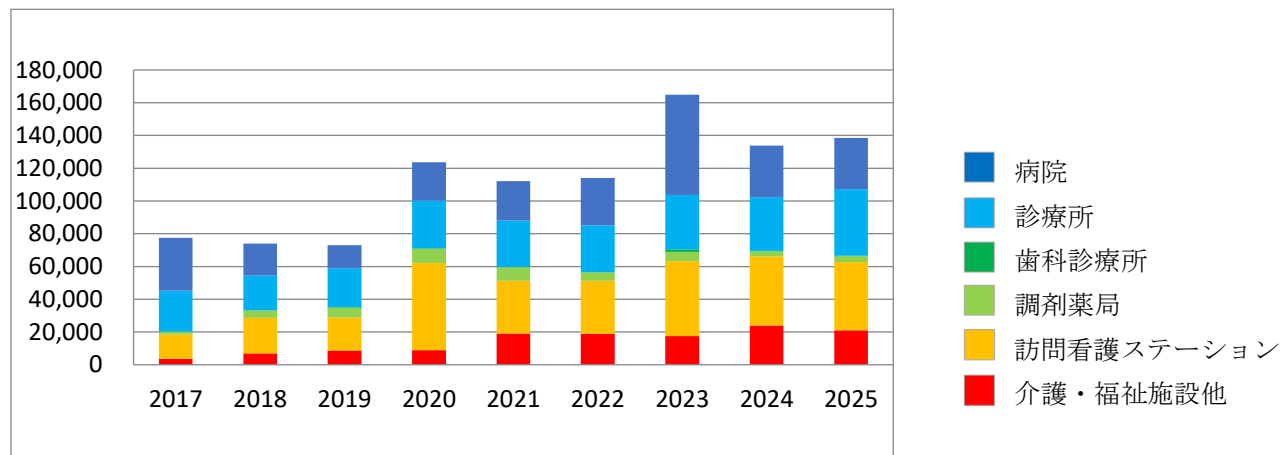


図2 職種別アクセス件数の年次推移

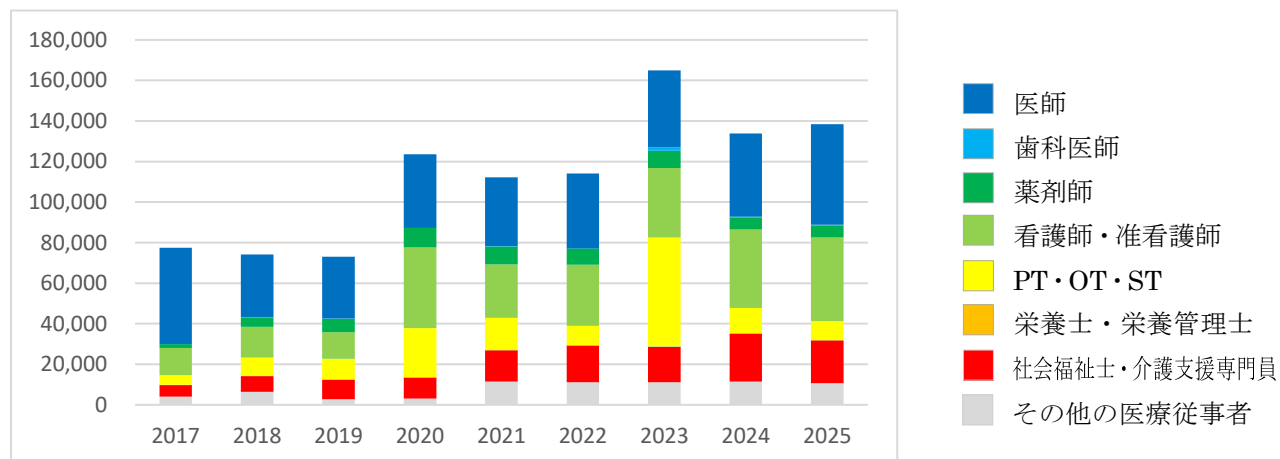
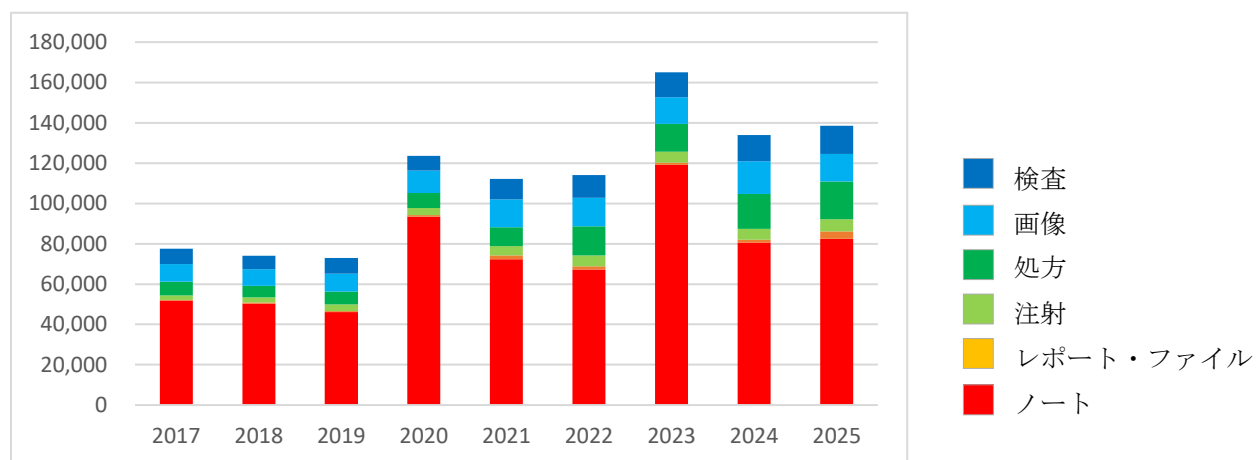


図3 項目別アクセス件数の年次推移



(2) 施設別のアクセス状況

図 4 病院の参照先・参照項目

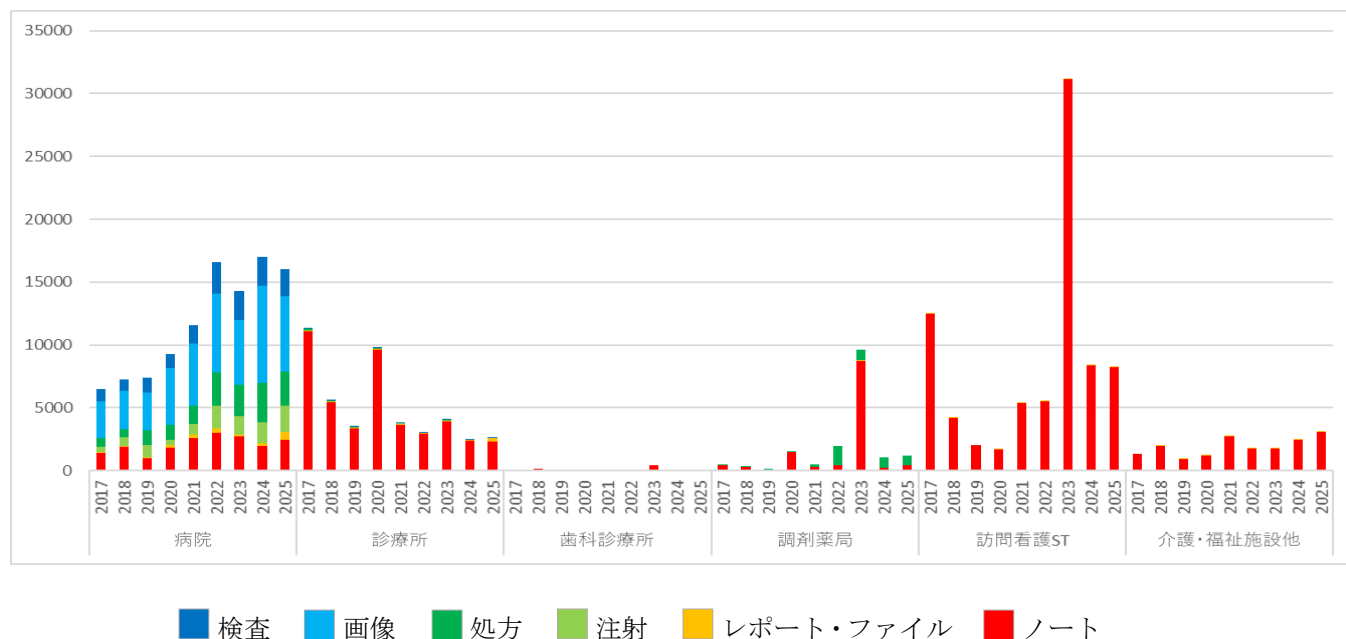


図 5 診療所の参照先・参照項目

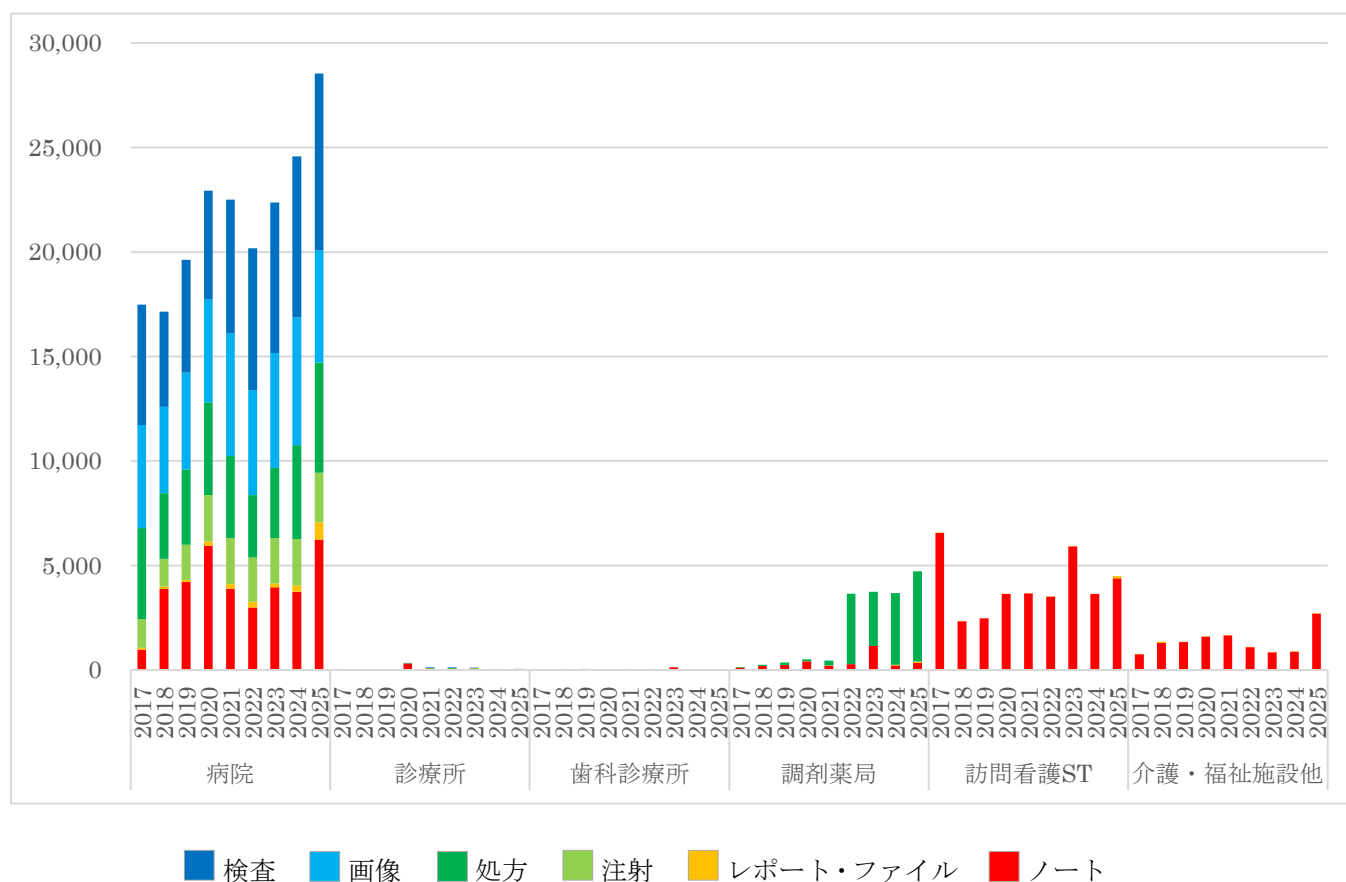


図 6 歯科診療所の参照先・参照項目

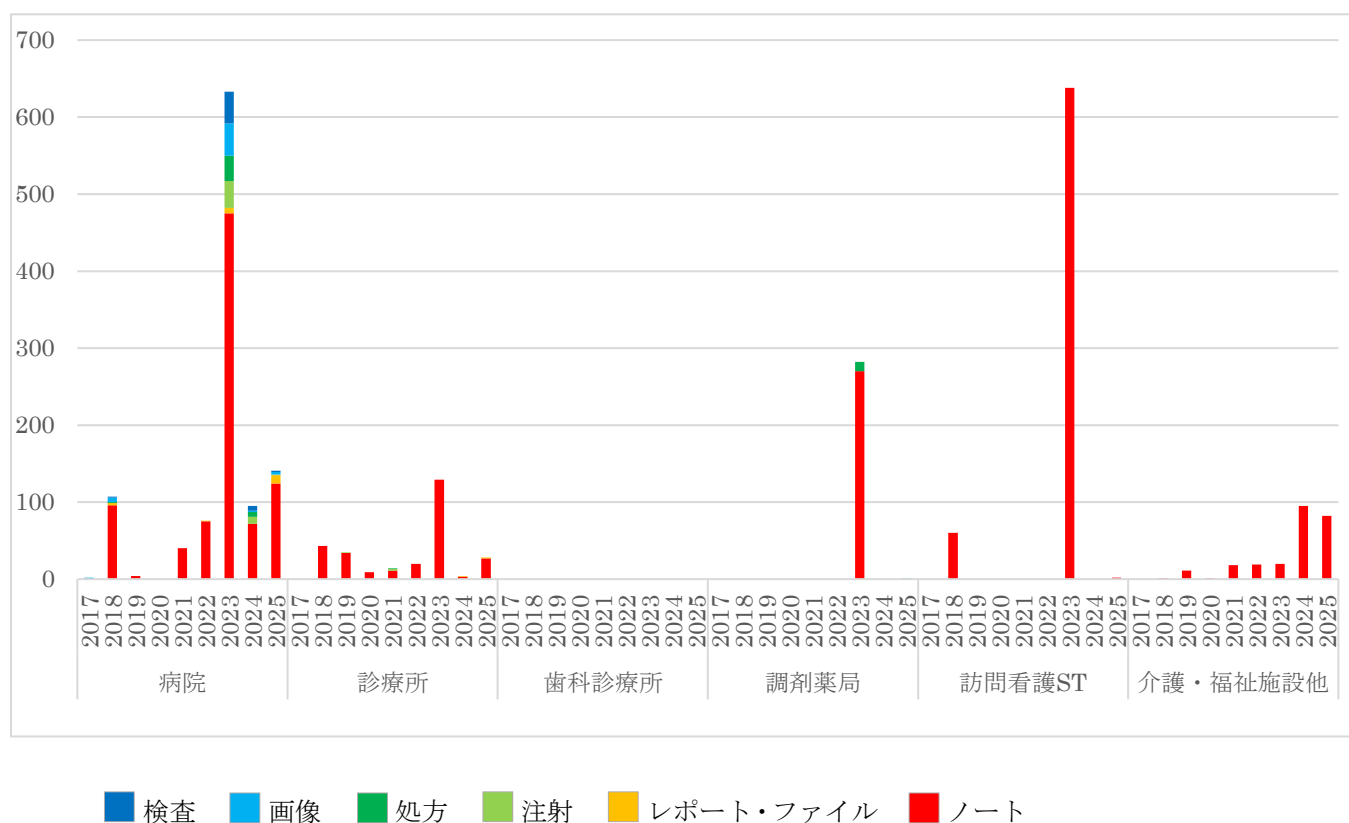


図 7 調剤薬局の参照先・参照項目

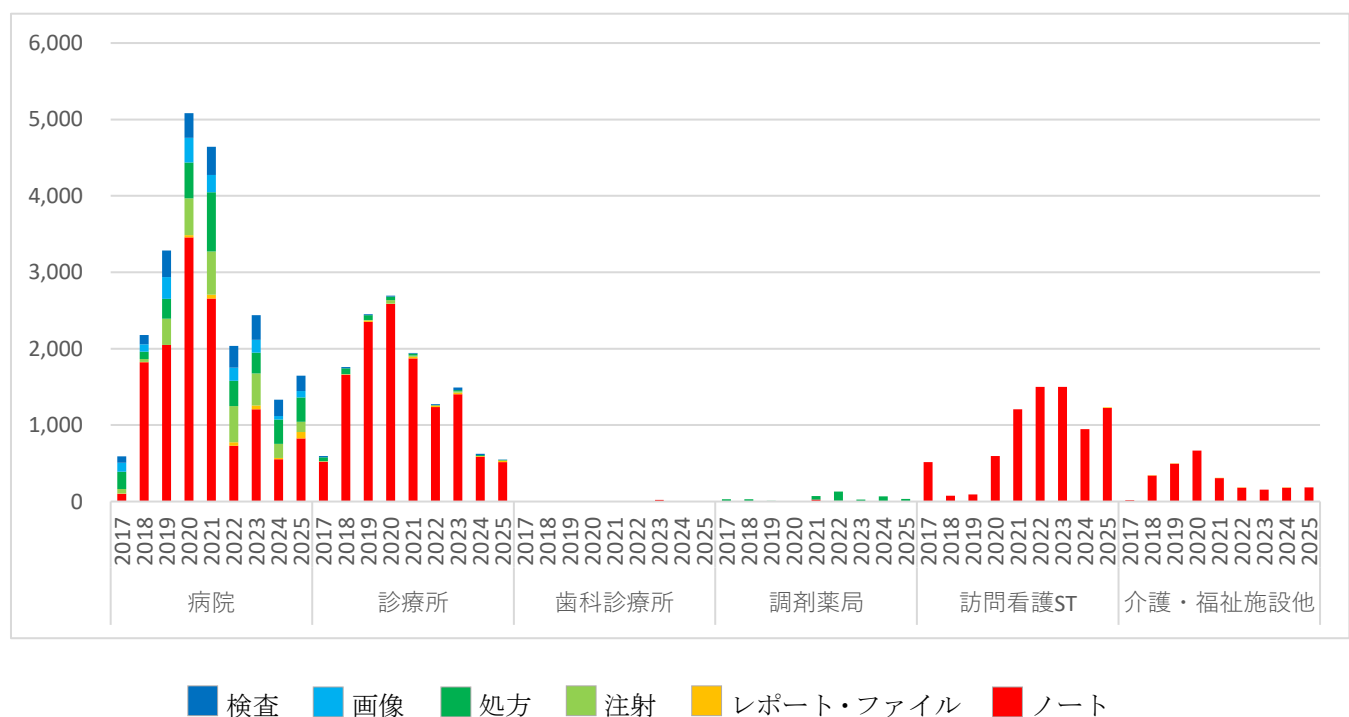


図 8 訪問看護ステーションの参照先・参照項目

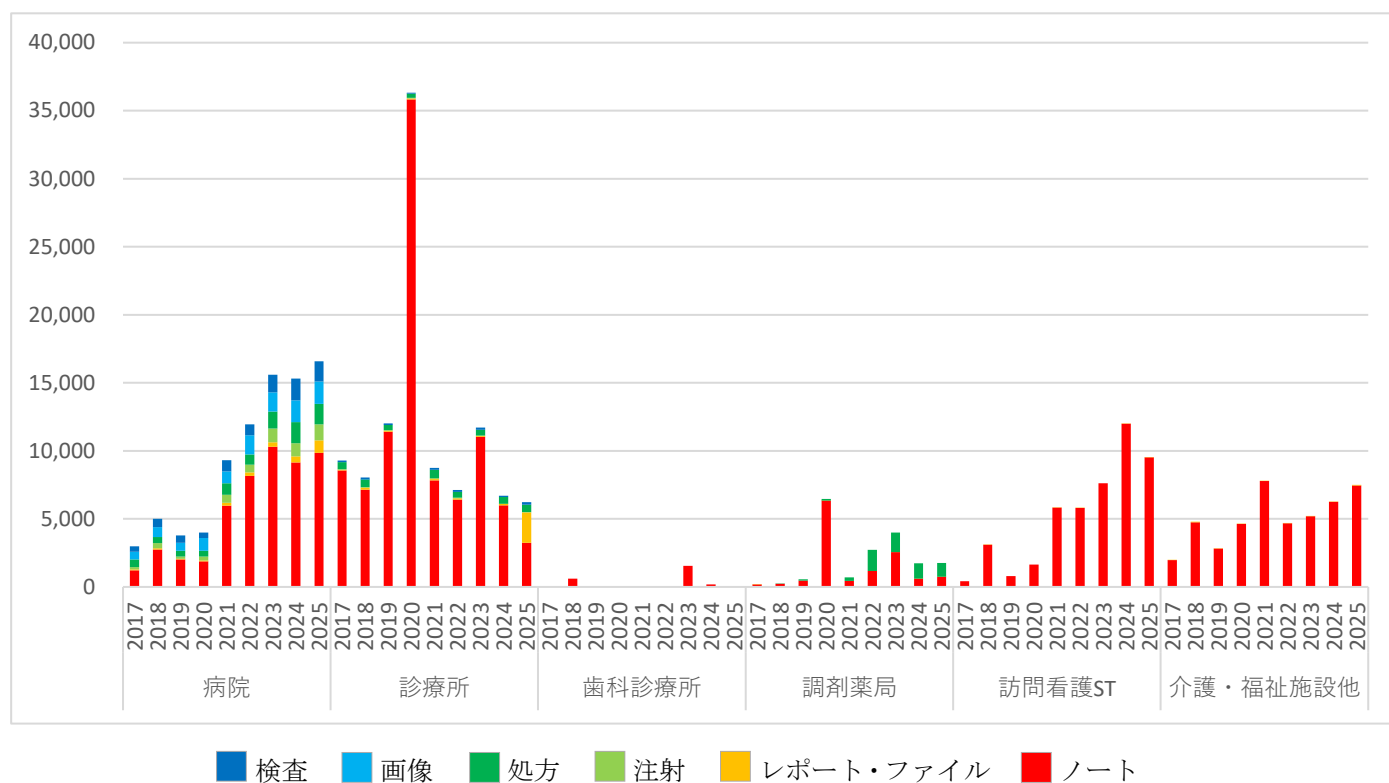
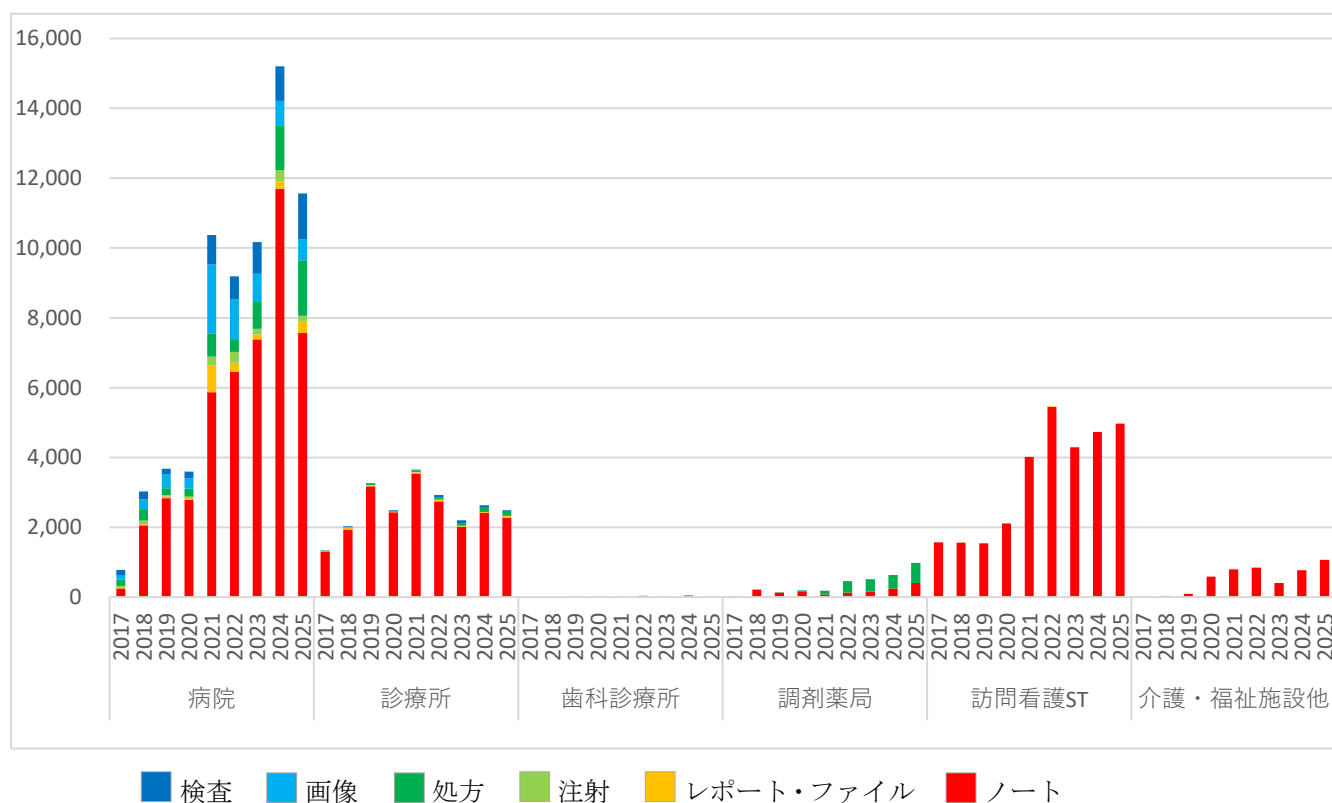


図 9 介護・福祉施設の参照先・参照項目



アクセスログの解析結果

(1) アクセス件数の年次推移

アクセス件数は 2017 年度から 2019 年度は 70,000 台であったが、2020 年度には 120,000 台に大幅に増え、さらに 2023 年度は 160,000 台を超え大きく伸びた。2024 年度は病院の利用件数が大幅に減少したことで 130,000 台となっている。施設別では、病院の利用は 2022 年度までは増減を繰り返しつつ徐々に増加し、2023 年度に大幅に増加、2024 年度では大幅に減少した。診療所の利用は増減を繰り返し徐々に増加、2025 年度は 40,000 台となった。歯科診療所の利用は 2023 年度に大きな増加を見せたが、2024 年度では元の件数程度までとなっている。調剤薬局の利用は 2020 年度をピークに減少傾向である。訪問看護ステーションの利用は特に 2020 年度と 2023 年度で大幅に増加している。介護福祉施設の利用は 2021 年度に大幅に増加、2024 年度は 24,000 台となった。(図 1)

職種別では、2017 年度までは医師のアクセスが全体の 60%以上を占めていたが、同年に南信州在宅医療・介護連携推進協議会において多職種の参加が承認されたことにより多職種が数値を伸ばし、2018 年度より割合が逆転し、2020 年度以降では医師以外の職種のアクセスが 65～70%台となっている。特に 2023 年度は PT・OT・ST、歯科医師の利用が大幅に増加したが、2024 年度は元の水準まで戻っている。社会福祉士・介護支援相談員の利用は 2022 年度と 2024 年度で大きく増加している。(図 2)

項目別ではノートの参照が 60～75%を占めているが、医療情報(検査・画像・処方等)へのアクセス件数も増えており、中でも処方や画像の参照が多くなっている。2024 年度はノートの参照件数が前年度より大幅に減少している。(図 3)

(2) 施設別のアクセス状況の解析

病院の総アクセス数は増減を繰り返しているが、これは年によって、診療所と訪問看護ステーションのノートの参照数に増減があるためである。病病間の医療情報(特に画像)の参照は着実に増えており、病院では ism-Link は医療機関間の診療情報の共有のための手段の一つとして定着している。(図 4)

診療所の総アクセス数は多少の増減を繰り返しながらも増加傾向である。主に病院の医療情報を参照するのに利用されている。また、在宅医療を積極的に行っている診療所では多職種(主に訪問看護、調剤薬局)との連携のため利用されている。(図 5)

歯科診療所では、病院、診療所、介護・福祉施設とのコミュニケーションの手段として利用がされている。2023 年度は 1,702 件と大幅に増加したが、2024 年度は大幅に減少している。(図 6)

調剤薬局の総アクセス数は増加傾向であったが、2020 年度をピークとして以降は減少傾向である。主に病院、診療所、訪問看護ステーションとのコミュニケーション手段として利用されている。(図 7)

訪問看護ステーションの総アクセス数は多少の増減を繰り返しながらも増加傾向である。診療所との連携での利用が主体であったが、2021 年度からは病院や訪問看護ステーション、介護・福祉施設の参照数が増加している。(図 8)

介護・福祉施設の総アクセス数はここ数年、参加施設が増え、増加傾向である。特に病院、診療所、訪問看護ステーションのノートの参照に利用されている。(図 9)

ism-Link は医療機関間での医療情報の共有、在宅医療での多職種連携のための「情報インフラ」として定着し、利用が進んでいる。